

会長に再任されて

日本分類学会長 今泉忠(多摩大学)

この度、日本分類学会会長に再選されました今泉忠です。

会員の皆様の活動、運営委員会の皆様の活動、幹事の皆様の活動のおかげで、日本分類学会大会の発表数も増え、また和文誌「データ分析の理論と応用」への内外からの評価も高まってきているのではないかと思います。日本分類学会が関係しているデータ分析などの分野で2年前に比べて大きく変わったのは、社会からの期待の増加と「ビッグデータ」の利活用がすすんだことではないでしょうか。社会からの期待のもとには、データにもとづいて意思決定を行うことの必要性が一層認識されてきたことがあるかと思えます。「ビッグデータ」に関しては流通の分野や工業の分野のみならず健康産業や農業の分野などでもその利活用は盛んになってきているかと思えます。しかし、その一方で「ビッグデータ」ブームと揶揄されている面があることも否定できません。データにもとづいて研究などを論理的に進めることは、どの学問分野でも基本であります。しかし、社会からの期待と「ビッグデータ」が一緒になると、「データをきちんと扱える」ということを前提にして「ビッグデータ」についてもより高度の分析を重視しがちとなる場合があります。ところが、「ビッグデータ」には、4Vと表現されるように、いわば想定した道から一步でも離れるとわからなくなるということ富士の樹海のような面も併せ持つ面があるかと思えます。このように従来のままの視点からデータをみるとややもすると十分でない場合もあり、広い視野からデータを捉えることができる研究やさまざまな貢献をおこなうことが重要ではないかと思えます。

この意味で分類とはクラスター分析を行ったりしてデータをまとめることであるという視点から離れて、従来とは異なる「分類」や「データ分析」の意味を再度問い直して、温故知新の気持ちで研究などに取り組んでいきつづけることが求められるのではないかと考えます。

一方、本学会活動の特徴の一つである国内外の学術団体の共同研究促進については2017年のIFCS2017

<目次>

・巻頭言「会長に再任されて」 今泉 忠	1
・役員改選	1
・学会大会・セミナー・シンポジウム関連報告・案内	
大会開催報告	2
セミナー開催報告	3
大会開催案内	3
・IFCS 関連報告	
IFCS 関係	4
・学会賞について	
日本分類学会 2014 年度学会賞選考について	4
日本分類学会 2014 年度学会賞選考理由について	4
学会賞受賞者より	5
・学会議事録等	
平成 26 年度総会議事録	6
運営委員会議事録	7
ネット運営委員会記録	14
幹事会議事録	15
ネット幹事会記録	19
・事務局から	20

を東京で2017年8月7日から10日の予定で開催することが決定しました。会員の皆様のご協力をお願いする次第です。

役員改選

平成27・28年度の役員改選結果報告

会則に従い、平成27・28年度の役員改選を行いました。なお、以下の所属の表記は選挙実施時のものになります。2名の選挙管理委員(久保田貴文(多摩大学)、裕之(横浜国立大学))により開票を行いました。結果は以下の通りです。任期は、平成27年4月1日から平成29年3月31日までです。

平成27・28年度役員
会長(敬称略)
今泉 忠(多摩大学)

会計監事 (2名: 50音順, 敬称略)
竹内 光悦 (実践女子大学)
林 篤裕 (九州大学)

<新運営委員> (20名: 50音順, 敬称略)

大隅昇 (元統計数理研究所)
大津起夫 (大学入試センター)
狩野裕 (大阪大学)
栗原考次 (岡山大学)
酒折文武 (中央大学)
佐藤美佳 (筑波大学)
繁樹算男 (帝京大学)
豊田裕貴 (法政大学)
中山厚穂 (首都大学東京)
馬場康維 (統計数理研究所)
林文 (統計数理研究所)
水田正弘 (北海道大学)
村上隆 (中京大学)
宿久洋 (同志社大学)
山岡和枝 (帝京大学)
山口和範 (立教大学)
山本義郎 (東海大学)
横山暁 (帝京大学)
吉野諒三 (統計数理研究所)
渡辺美智子 (慶應義塾大学)

また、運営委員会によって、以下の幹事会メンバーが承認されました。

平成 27・28 年度 幹事長
中山厚穂 (首都大学東京)
平成 27・28 年度 幹事
久保田貴文 (庶務, 多摩大学)
河野康成 (会計, 立教大学リーダーシップ研究所)
酒折文武 (広報, 渉外 (国際学会活動), 中央大学)
横山 暁 (広報 (会報・SNS), 帝京大学)
豊田裕貴 (企画, 多摩大学)
鶴見裕之 (企画, 横浜国立大学)
宿久 洋 (渉外, 同志社大学)
山本義郎 (渉外, 東海大学)
宮本定明 (渉外 (国際学会活動), 筑波大学)
岡太彬訓 (ジャーナル, 立教大学)
水田正弘 (IFCS, 北海道大学)
栗原考次 (IFCS, 岡山大学)

大会・セミナー・シンポジウム関連報告

○ 大会開催報告
日本分類学会第 33 回大会開催報告
大会実行委員長 横山暁 (帝京大学)

日本分類学会第 33 回大会は、2015 年 3 月 2 日 (月) ~ 3 日 (火) に帝京大学霞ヶ関キャンパスにて開催されました。大会初日の 3 月 2 日にはデータ分析セミナー「統計初心者でもわかる分類手法入門から活用 R を使ったデータ分類」が開催されました。セミナー後から開催された大会においては 2 日間にわたって 19 件の講演が行われ、50 名もの参加者により活発な討論が行われました。実行委員長として発表者の皆様、参加者の皆様に感謝を申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

第 1 セッション (3 月 2 日 15:30-16:50)

座長: 馬場康維 (統計数理研究所)

- ・非対称 MDS による傘ブランドの関係性分析
齊藤俊則 (文京学院大学・株式会社マクロミル)
- ・時系列非類似度データに対するトレンドを考慮した多次元尺度構成法について
山下陽司 (同志社大学大学院)・宿久洋 (同志社大学)
- ・クラスター分析の目的とクラスターの意味
岡太彬訓 (多摩大学大学院)・横山暁 (帝京大学)
- ・変数型が混在する場合の集約的シンボリックデータの階層的クラスタリング
清水信夫 (統計数理研究所)・中野純司 (統計数理研究所)・山本由和 (徳島文理大学)

第 2 セッション (3 月 3 日 9:40-11:00)

座長: 今泉忠 (多摩大学)

- ・放射線量モニタリングポストデータに対する時空間集積性の検討
石岡文生 (岡山大学)・栗原考次 (岡山大学)
- ・戦略的データ解析に関する一考察—経営学とマーケティングの視点から—
石塚隆男 (亜細亜大学)
- ・多国籍企業の分類基準に関して
松本大吾 (青森大学)・古隅弘樹 (兵庫県立大学)・松田芳郎 (統計情報研究開発センター)
- ・企業における兼業構造の変容と産業分類について
古隅弘樹 (兵庫県立大学)・松田芳郎 (統計情報研究開発センター)・馬場康維 (統計数理研究所)

第 3 セッション (3 月 3 日 11:10-12:10)

座長: 酒折文武 (中央大学)

- ・プレー詳細データの要約値に基づくサッカーゲームの分類
亀岡瑤 (東海大学大学院)・山田実俊 (東海大学大学)

- 院)・日比颯(東海大学)・山本義郎(東海大学)
- ・セイバーメトリクスの指標を用いた打者の分類
池上拓人(東海大学大学院)・八木圭太(東海大学大学院)・船山貴光(東海大学大学院)・山本義郎(東海大学)
- ・Twitter の投稿データ分析によるスポーツ選手へのソーシャルリスニングの適用
菊間豪(横浜国立大学大学院)・鶴見裕之(横浜国立大学大学院)

第4セッション(3月3日 13:10-14:30)

座長: 清水信夫(統計数理研究所)

- ・対応分析を用いたアソシエーションルールによるアンケート結果の可視化
山田実俊(東海大学大学院)・山本義郎(東海大学)
- ・アンケートの可視化と回答傾向の分類
宗像昌平(東海大学大学院)・山本義郎(東海大学)
- ・ラベルの分類を伴う次元縮約とマルチラベル判別の同時分析法について
生田洋輝(同志社大学大学院)・谷岡健資(同志社大学大学院)・宿久洋(同志社大学)
- ・教師付データのためのRKM法について
坂上潤(同志社大学大学院)・宿久洋(同志社大学)

第5セッション(3月3日 14:40-16:00)

座長: 岡太彬訓(多摩大学)

- ・行列モデル因子分析における因子得点の不定性の解消と因子得点のクラスター化
宇野光平(大阪大学大学院)・足立浩平(大阪大学)
- ・分類と分割
渋谷政昭(慶應義塾大学)
- ・関数データクラスタリングにおける部分区間の同定法と学習ログデータへの適用
松井佑介(名古屋大学)・島村徹平(名古屋大学)・中村永友(札幌学院大学)
- ・連続・離散変換とクラスター分析
馬場康維(統計数理研究所)

○ セミナー開催報告

セミナー担当幹事 豊田裕貴(多摩大学)

2015年3月2日(月)日本分類学会第33回大会と同時にデータ分析セミナーが「統計初心者でもわかる分類手法入門から活用 R を使ったデータ分類」というテーマにて開催された。

内容は以下の通りであった。

第一部(10:30-12:00)

分類手法入門: 階層クラスターから分類木まで

講師: 豊田裕貴(多摩大学, 所属は当時)

第二部(13:00-14:30)

オーバーラッピング・クラスタリング入門

講師: 中山厚穂(首都大学東京)

今回は、「統計初心者でもわかる」と題され、分類手法を基礎からはじめ、さらにいかに活用するかといった実践的な内容が取り扱われた。入門セミナーとはいえ、学会主催のセミナーであることを踏まえ、階層クラスターや K-means 法といった基礎となる手法に加え、ファジー c-means や Random Forest 法といった高度な手法まで広く解説されるとともに、R の見本コードを配付するなど、使える知識を広めることを目指した試みとなった。

参加者は 41 名(会員・シニア会員 10 名, 非会員 19 名, 学生会員 1 名, 学生非会員 11 名)であった。講義内での質疑応答に加え、終了後も講師への質問なども行われ、盛況な開催となった。また、非会員の方の参加も多く、日本分類学会を知っていただく機会となった。

○ 大会開催案内

日本分類学会第 34 回大会開催について

実行委員長 山本義郎(東海大学)

日本分類学会第 34 回大会を、2016 年 2 月 29 日(月)~3 月 1 日(火)に東海大学高輪キャンパスにて開催する予定となりました。東海大学高輪キャンパスは東海大学の情報通信学部のキャンパスで、白金高輪、泉岳寺から徒歩数分、JR 品川駅からはバスが便利です。東京の真ん中で開催されますので、地方の方を含め、多くの会員の皆様のご参加並びにご講演をお待ちしております。講演申込等のスケジュールは、確定し次第、日本分類学会のウェブページ <http://bunrui.jp>にてお知らせいたします。本大会が有意義な会となるよう実行委員一同最善を尽くし、皆様をお待ちしております。大会についてのお問い合わせは、大会事務局(山本義郎)までお願い致します。

日本分類学会第 34 回大会事務局

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

東海大学理学部数学科 山本義郎

連絡先: yama@tokai-u.jp

IFCS 関連報告

○ IFCS 関係

今泉忠(多摩大学)

この度、国際分類学会連合 (IFCS) の理事会で、IFCS-2017 を日本で開催することが承認され、Bologna で開催された IFCS-2015 では、IFCS-2017 への参加促進のための広報活動などを行ってきました。

開催日時は2017年8月8日から8月10日で、8月7日にはtutorialを計画しております。開催場所は共催校の東海大学の高輪キャンパスであります。また、Post-Proceedings を出版社 Springer でのシリーズの一卷としての発行することも計画し、出版社と折衝中であります。

日本で開催する IFCS 大会は、林 知己夫氏を IFCS-1996 大会組織委員長として神戸で開催してから約 20 年後の開催となります。IFCS-1996 大会は、分類に関する理論と手法をデータの科学(Data Science)の枠組みにて位置付けた大会であり、大きな成功を収めた大会でありました。

一般には「十年一昔」と言われておりますので、特に、データを扱う分野での二十年は、データ分析環境に関しては十分過ぎるほどの変化をもたらす年数であると思われまふ。現在および未来では、多様で、超容量のデータで、粗である「ビッグデータ」とも呼ばれるデータから、それらを発現せしめている隠された情報を得るための方法論が求められる時代になると考えられます。それらは、二十年前と同じものであるかもしれませぬし、そうでないかもしれませぬ。

このような多様に變化したデータ環境のなかで、次のデータの科学を提案できるような大会にすべく、日本分類学会会員の皆様・統計関連学会所属の諸学会の皆様・広くデータの科学に関係されておられる諸学会の会員の皆様のご協力をいただきたいと考えております。

今後、大会組織委員会の構成決定を始めとする多くのことがらがございますが、会員の皆様のご協力をいただきながら進めて参りたいと存じますので、よろしくお願ひいたします。

詳しい日本語での案内は
<http://bunrui.jp/IFCS2017>
に、また、正式な案内や登録情報などは
<http://ifcs.boku.ac.at/>
にてお知らせいたします。

学会賞について

○ 日本分類学会 2014 年度学会賞選考について
学会賞選考委員長 岡太彬訓 (多摩大学)

昨年度 (2014 年度) に創設された日本分類学会学会

賞の 2014 年度の選考の経緯を簡単に述べる。会報第 33 号に詳らかにされているように、日本分類学会学会賞には、日本分類学会貢献賞、日本分類学会論文賞、および、日本分類学会奨励賞が設定されている。第 1 回の学会賞授賞ということで、学会賞各賞の性格や位置付けはいうまでもなく、選考手続きを確立する上でも将来に大きな影響があることを考え学会賞選考委員会は手順も含めて慎重かつ入念に選考を進めた。その間当初の学会賞内規では対応が難しい点について学会賞内規の改訂を運営委員会へお願ひし、改訂までは必要はないが曖昧さの残る諸点については運用指針ともいべき申し合わせを取り決めながら選考を進めた。推薦された候補者は、学会賞各賞に極めて相応しい業績を挙げ、学会賞授賞者として十二分に適うといつてよい方々であった。その中から、貢献賞授賞者矢島敬二会員、論文賞授賞者山本倫生会員 (対象論文: Yamamoto, M. (2012). Clustering of functional data in a low-dimensional subspace. *Advances in Data Analysis and Classification*, 6, 219-247.)、奨励賞授賞者谷岡健資会員という結論を得た。なお、学会賞に推薦された候補者に学会賞選考委員会委員が含まれていたため、選考委員会の当初から自主的に今年度の審議に一切加わらないことを委員会で取り決め、その旨学会賞内規を改訂した。

○ 日本分類学会 2014 年度学会賞選考理由について
今泉忠 (多摩大学)

日本分類学会賞として日本分類学会貢献賞・日本分類学会論文賞・日本分類学会奨励賞があります。この度、第一回日本分類学会賞に関する授賞候補者を選考し、運営委員会で決定し総会におきまして授賞式を行いました。ここでは、各授賞者に関する受賞理由を要約して述べることで、授賞者を祝するとともに皆様の研究促進の一助になればと存じます。

日本分類学会貢献賞 矢島敬二会員

主な選考理由

矢島敬二会員は、1960 年代から当時の電子計算機を用いたデータ分析に利用に注目し、そのために必要なソフトウェアの開発やさまざまな分野での応用に長年指導的な立場で携わられました。特に、ソフトウェアの作成のみならずその検査の重要を理解されて研究活動をしてこられました。今日ではデータ分析のために様々なソフトウェアが利用可能ですが、いわばその基礎を固められることに貢献されました。また、同氏は、日本分類学会の設立時に主要な役割を果たされ、その後、会長、運営委員、国際分類学会連合の理事会 (council) における日本分類学会を代表した理事なども

歴任されました。IFCS-1996 大会では日本分類学会の担当委員として、大会を成功に導かれました。このように、データの科学としての分類やそのデータ分析の分野における優れた研究業績は、日本分類学会の活動、ひいてはこの分野に関して著しい貢献をなすものであり、分類学等の指導、育成、普及にも著しく貢献されました。

日本分類学会論文賞 山本倫生会員

主な選考理由

山本倫生会員の受賞対象論文となりましたのは、特に Yamamoto, M. (2012). Clustering of functional data in a low-dimensional subspace. *Advances in Data Analysis and Classification*, 6, 219-247. であります。この論文は、次元縮約とクラスター化を functional data に対して行う新しい手法の提案であります。従来から分析法として批判されることもある tandem analysis (因子分析, 主成分分析, 多次元尺度構成法などで得られた結果をクラスター分析する) に取って代わる手法であり、その研究の意義も大きいと考えられます。また、論文中に示されている応用例も意義深いものであり、提案手法の数学的な展開の巧みさとともに、データの科学としての分類やそのデータ分析に関して、特に優秀な論文と認められます。

日本分類学会奨励賞 谷岡健資会員 (学生会員)

主な選考理由

多様なデータが容易に収集されるようになり、様々な形式のデータを分析する必要性はますます高まっております。このような多様なデータについては、適切に分析する手法が存在せずに、やむを得ず既存の手法を流用する場合が少なくありません。谷岡健資会員は 3 相データという情報は多いが分析する手法が非常に限定されているデータ形式に注目し、その分析手法を例えば、

Tanioka, K., & Yadohisa, H. (2014). K-mode clustering with dimensional reduction for categorical data, *European Conference on Data Analysis 2014, Bremen, Germany*. のように、一連の研究発表で取り上げて積極的に研究を進めておられます。これらの発表で取り上げられている研究テーマや手法は今後の進展が期待され奨励賞にふさわしいと考えられます。

○ 学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して
矢島敬二

2015 年 3 月 3 日の日本分類学会第 33 回大会で貢献賞をいただき大変光栄に思います。手元にある 1983 年 11 月 15 日発行の「分類の理論と応用に関する研究会会報」第 1 号に林知己夫会長の「会報発刊に当って」を見ると最後の言葉は次のようなものであった。「分類は、科学において最初に行うべき方法であると共に、最後に結末を付ける方法でもある。」このような視点に立って研究会は始動し、国際的な連携も始まって 30 年を経過し、扱う内容もデータ科学の樹立を目指すものへと発展している。

幸い統計数理研究所所長であった林知己夫会長の全体的な組織面での指導と同研究所の専門研究者大隅昇教授の多岐にわたる実務処理により学会は活動を開始できたのであった。お二人なしに研究会の発足はあり得なかった。その点で貢献賞の受賞は言葉が古くなるが忸怩たる思いがする次第です。ここに本学会、分類学会国際連合、統計関連学会連合での活動の際にご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

30 年の間に情勢は著しく変化し、時代の要請もあり対象分野は拡大し、データ解析全般が対象分野に含まれた。分類手法を実現する情報処理機器の進展もめざましく汎用性のある実用的なシステムも手軽に利用可能となった。

データ取得と保持が経済性を持つようになり巨大データの処理に関する基礎的な研究の確立も重要なテーマとなっている。ますます学際的な研究の交流が必要と思われる。

分類学会国際連合 (IFCS) を通しての国際的な交流にも道筋ができています。分類学会の研究者が時代の要請をふまえて活発な活動を進められることを望んでやまない次第です。



矢島敬二

(やじま けいじ)

1956 年 東京都立大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了
1960 年 (株)日本科学技術研修所勤務 (プログラム開発担当),
1964 年 東京経済大学専任講師, 助教授 (統計学担当) (至 1968 年),
1968 年 (株)日本科学技術研修所取締役 (至 1989 年 3 月),
1989 年 東京理科大学第一部教養 教授,
1992 年 同 経営学部経営学科 教授 (至 2005 年 3 月)

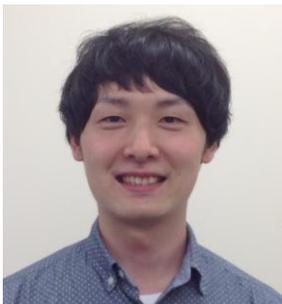
日本分類学会論文賞を受賞して
山本倫生（京都大学大学院医学研究科）

この度は栄えある賞をいただき大変光栄に存じます。今回の受賞は諸先生方のご指導・ご協力があったことだと思いますので、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、受賞の対象となった論文（Yamamoto, 2012, ADAC）は、博士前期・後期課程在籍時の研究をまとめたものですので、当時ご指導いただいていた大阪大学大学院人間科学研究科の足立浩平先生、および同大学院基礎工学研究科の狩野裕先生に特に感謝申し上げます。

さて、受賞対象の論文は私が初めて学術雑誌に掲載された論文でしたので、今回の受賞によってさらに思い出深い論文となりました。当該論文は多変量関数データを用いた個体のクラスタリング法の提案が主題でした。データ全体を用いるのではなく、クラスター構造を表現するのに最適な部分空間を推定することを目的とし、これによりクラスター構造に強く影響を与える変数や関数の部分集合の特定が可能となりました。また、推定された低次元ユークリッド空間上に個体やクラスター中心を射影することで、複雑な多変量関数データの視覚的な分析も行うことが出来ます。なお、関数データに限らず様々な形式のデータに対して、ある特定の構造（例えばクラスター構造）に関連する部分空間を推定しようとする方法の開発が近年活発であり、私の提案方法もそのような方法の一つだと考えられます。

関数データを対象とした多変量解析法については、ここ 20 年の間に非常に多くの方法が開発されてきました。しかし、私の提案方法もそのような方法ですが、その多くは記述的な方法であり、関数データを無限次元空間上の確率変数として扱った方法やその理論的な性質の検討がまだまだ不十分であるように思います。今後は多変量関数データに対する新たな解析法の開発を行うとともに、その理論的な性質についても検討していく予定です。

今回の受賞を励みに今後も自身の研究に打ち込み、その研究活動を通して分類やデータ分析の分野の発展に貢献して参りたく存じます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



山本倫生
（やまもと みちお）
京都大学大学院医学研究科
助教
2013 年 3 月大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了。博士（理学）

日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学大学院医学研究科特定助教を経て 2015 年 5 月より現職

日本分類学会学生奨励賞を受賞して
谷岡健資（同志社大学大学院）

この度、帝京大学で開催されました日本分類学会第 33 回大会（平成 27 年 3 月）にて奨励賞を頂き、厚くお礼申し上げます。このような栄誉ある賞を受賞することができましたのも、ひとえに分類学会の諸先生方や皆様方のご指導あったの賜物と心よりお礼申し上げます。また、学部生のころより御指導頂きました指導教員の宿久洋教授に厚く御礼を申し上げます。

日本分類学会や German Classification Society にて現在まで 4 つの研究内容について発表させて頂きました。1 つめはデータ標準化のクラスタリング結果に与える影響についての検証、2 つめは 3 相 3 元データに対する部分空間凝集型階層的クラスタリング法について、3 つめは外れ値の影響を考慮した非対称非類似度データに対する凝集型階層的クラスタリング法について、4 つめは質的多変量データに対する次元縮約を伴う k-mode 法について、という内容でそれぞれ発表させて頂きました。また、初めての国内会議、国際会議での発表をそれぞれ日本分類学会、German Classification Society で行わせて頂いた際、諸先生方には発表内容に対する貴重な意見やコメントを頂いたうえに、様々な面でお世話になりました。重ねて心よりお礼を申し上げます。

今回頂いた賞を励みにより良い研究ができるように研究活動に邁進する所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願ひ致します。



谷岡健資
（たにおか けんすけ）
2009 年 9 月同志社大学文化情報学部卒業、2012 年 3 月同志社大学大学院文化情報学研究科博士課程前期課程修了、2015 年 6 月現在同志社大学大学院文化情報学研究科博士課程後期課程在学中

学会議事録等

○平成26年度総会議事録

開催日時：平成27年3月3日(火)16:00～17:00
開催場所：帝京大学霞ヶ関キャンパス（〒102-0093
東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー9階）
出席者：18名

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により総会が開会された。

■2014年度日本分類学会学会賞表彰式

2014年度日本分類学会学会賞表彰式において、矢島敬二氏に貢献賞、山本倫生氏（京都大学）に論文賞、谷岡健資氏（同志社大学）に奨励賞が授与された。

■議長の選出

議長として統計数理研究所の清水信夫氏が推薦され、承認された。

議題

報告事項

1. 大会の次回開催校について

竹内幹事長より次回の第34回大会を東海大学の山本義郎氏を大会実行委員長として2016年の3月上旬に開催予定であることが報告された。

2. 次期会長と次期幹事長について

竹内幹事長から、先に行われた役員改選選挙の結果、次期会長の候補である今泉忠氏（多摩大学）が信任された。運営委員会において、幹事長に中山厚穂氏（首都大学東京）が選ばれた旨の紹介があった。

審議事項

1. 平成26年度事業報告ならびに決算報告について

竹内幹事長から平成26年度事業報告について、河野会計担当幹事から平成26年度決算報告について説明があり、審議の上、承認された。なお、最終の決算報告書については、会計監事の承認を経て署名・捺印いただいたものを次号会報に掲載する旨の説明があった。

2. 平成27年度事業計画ならびに予算計画について

中山庶務担当幹事から平成27年度事業計画、河野会計担当幹事より平成27年度予算計画について説明があった。また、事業計画のIFCS2017の日本開催への立候補について今泉会長から資料に基づいて

説明があった。その主な内容は、会場は東海大学高輪キャンパスで、2017年8月7(月)にチュートリアル、8(火)～10日(木)に大会を開催予定であること、大会実行委員会とローカルSPCの構成、日本分類学会の事業であるが、計画や会計などは独立で行う予定であること、2015年3月10日までにIFCS Councilに立候補のための書類を提出し、IFCS2015でFlyerを配布予定であるというものであった。審議の結果、提案の通り承認された。

■閉会の挨拶

最後に、竹内幹事長から閉会の挨拶が行われ、閉会となった。

○運営委員会議事録

・平成25-26年度第2回運営委員会

開催日時：平成25年12月14日(土)、15:00～16:30
開催場所：品川インターシティフロントビル 3F, Desk@

出席者：今泉忠（会長、多摩大学）、大津起夫（大学入試センター）、岡太彬訓（多摩大学）、竹内光悦（実践女子大学）、林文（元東洋英和女学院大学）、山本義郎（東海大学）

陪席幹事：河野康成（立教大学リーダーシップ研究所）、豊田裕貴（多摩大学）、横山暁（帝京大学）
（会長以外五十音順、敬称略）

■開会の挨拶

今泉会長から開会の挨拶があり、今泉会長を、議長として下記議題について審議した。

議題

1. 平成25年度大会および日本分類学会セミナーについて

竹内幹事長から資料に基づき平成25年度の大会について、首都大学東京の中山厚穂氏を実行委員長とし、3月1日～2日に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて実施すること、初日に日本分類学会セミナーを実施することの説明があった。続けて豊田セミナー担当幹事からセミナー開催主旨や内容、予定講師、目標参加者数などの紹介があった。出席運営委員・幹事から1年前に告知や夏にもセミナーを実施、内容を踏まえた時間計画などセミナーの詳細について意見や提案があった。審議の結果、提案どおり承認された。

日本分類学会 平成 26 年度事業報告

平成 27 年 3 月 3 日

1. 第 33 回大会、データ分析セミナーの開催

第 33 回大会を平成 27 年 3 月 2 日（月）・3 日（火）に帝京大学霞ヶ関キャンパスで開催した（大会実行委員会委員長：横山曉氏（帝京大学）、発表件数 19 件）。データ分析セミナー「統計初心者でもわかる分類手法入門から活用 R を使ったデータ分類」を平成 27 年 3 月 2 日（月）（第 33 回大会会期中）に、豊田裕貴氏（多摩大学）を中心に開催した。

2. シンポジウムの開催

2014 年シンポジウム「主成分分析の拡張と新展開」を平成 26 年 9 月 14 日（日）（統計関連学会連合大会会期中）に足立浩平氏（大阪大学）を中心に開催した。

3. 第 33 回総会の開催

第 33 回総会を第 33 回大会開催中の平成 27 年 3 月 3 日（火）に帝京大学霞ヶ関キャンパスにて開催した。

4. 2014 年度学会賞の授与

平成 27 年 3 月 3 日（火）の第 33 回総会において 2014 年度学会賞の表彰式を行った。

5. 運営委員会、幹事会の開催

(1) 運営委員会は、帝京大学霞ヶ関キャンパスにて平成 25-26 年度第 4 回運営委員会を平成 27 年 3 月 3 日（火）に平成 27-28 年度第 1 回運営委員会と合同で開催した。主に、運営方針、幹事長の選出と幹事会の構成、大会の次回開催場所、次回セミナー、平成 26 年度事業報告ならびに決算報告、平成 27 年度事業計画ならびに予算計画、総会議題案、IFCS2017、入退会、その他検討が必要な課題について検討、審議を行った。また、第 1 回～第 4 回ネット運営委員会をそれぞれ電子メールにて実施した。主に、入退会審議、学会賞選考や選挙実施に関連する事項ならびにその他検討が必要な課題について検討、審議を行った。

(2) 幹事会は平成 25-26 年度第 3 回幹事会を平成 26 年 6 月 7 日（土）に実践女子大学渋谷キャンパスで開催した。主に、第 33 回大会の開催時期、セミナー、講演会、ワークショップ等の開催、学会広報活動、IFCS2017 関連、賛助会員向けサービス、学会賞、フェロー制度、会則・細則・内規の整備・修正、会員増に向けての方策などについて検討、審議を行った。第 4 回幹事会を平成 26 年 9 月 14 日（日）に東京大学本郷キャンパスで開催し日独分類シンポジウムの開催について検討した。第 5 回幹事会を平成 27 年 3 月 2 日（月）に帝京大学霞ヶ関キャンパスで開催し、運営委員会での議題等についての調整を行った。

6. 会報、ウェブページ、メールニュース、Facebook による学会および関連情報の発信

広報担当幹事を中心に、学会活動の告知および報告を会報（No.33 を平成 26 年 10 月発行）およびウェブページ、メールニュース、Facebook にて発信した。

7. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行、ADAC（欧文ジャーナル）の発行協力

和文誌「データ分析の理論と応用」の第 4 巻第 1 号の発行を行った。そして、特集「コレスポンデンス分析・Dual Scaling・数量化理論再考」を企画（担当編集委員：今泉忠氏（多摩大学））し、投稿を募集した。また ADAC への発行協力および投稿支援を行った。編集委員会委員の 1 名の増員と投稿規定 4 の改定を行った。

8. 他学会との交流と協力

(1) 統計関連学会連合理事会への協力・参加、プログラム委員会、運営委員会への参加、2014 年度統計関連学会連合大会の共催を行った。

(2) 国際分類学会(IFCS)への協力、分担金の負担を行うために、預金積み立てを行った。

(3) IFCS 傘下学会への協力を行った。

(4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛を行った。

9. 学術会議への登録検討

本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体としての登録に向けて検討を行った。

10. 学会資料の電子化および保管

本学会の資料の電子化に向けて紙媒体の資料の整理を行い、電子化を行った。

平成26年度決算
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

日本分類学会

単位:円

科目	予算額	決算	増減	備考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	6,000	△ 4,000	2,000円×3人
2 会費収入	491,000	662,000	171,000	納入率72%
正会員	445,000	524,000	79,000	5,000円×104人(72%)
シニア会員	6,000	9,000	3,000	3,000円×3人(納入率:100%)
学生会員	10,000	6,000	△ 4,000	2,000円×3人(60%)
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000円×1口(納入率:50%)
前年度以前分	0	75,000	75,000	
前受金	0	18,000	18,000	
3 論文誌関係収入	168,000	24,480	△ 143,520	
論文集売上	0	0	0	
予稿集売上	0	0	0	
広告収入	150,000	0	△ 150,000	50,000×3社+30,000×1社(は次年度振込予定)
別刷代金	0	6,480	6,480	
論文誌関係雑収入	18,000	18,000	0	ページチャージ(Vol.3分)
4 雑収入	240,000	289,839	49,839	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	独立採算
セミナー参加費	240,000	182,000	△ 58,000	
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	88	88	銀行口座利子
その他	0	107,751	107,751	第33回大会補助費返還および寄付
5 繰入金収入	30,000	30,000	0	
積立より繰入	30,000	30,000	0	選挙費用積立より繰入
A 当期収入合計	939,000	1,012,319	73,319	
B 前期繰越収支差額	1,123,928	1,190,288	66,360	
C 収入合計(A+B)	2,062,928	2,202,607	139,679	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	500,000	692,958	△ 192,958	
和文誌(Vol.4)	500,000	563,574	△ 63,574	送料、手数料含む
その他	0	129,384	△ 129,384	Vol.4カラー印刷代、TeX化料金、別刷代金
2 事業費	200,000	153,708	46,292	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは連合大会のときに実施
セミナー運営補助費	80,000	20,000	60,000	講師(会員)謝礼10,000×2
広報費	30,000	0	30,000	
学会賞経費	10,000	33,220	△ 23,220	表彰状経費、花代、大会参加費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	30,000	47,488	△ 17,488	
その他	0	3,000	△ 3,000	年会費過払い金返却
3 学会運営会合費	30,000	48,579	△ 18,579	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	30,000	47,230	△ 17,230	会議弁当代
その他	0	1,349	△ 1,349	会計監査会議費
4 事務費	105,920	108,450	△ 2,530	
業務委託費	50,420	50,432	△ 12	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	0	0	0	
事務用品・消耗品費	10,000	25,989	△ 15,989	
ADAC 事務連絡費	2,000	0	2,000	
ウェブ運営管理費	3,500	3,229	271	ドメイン更新料
会報印刷費	35,000	28,800	6,200	会報 No.33
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	35,000	48,474	△ 13,474	
会報等送料	25,000	18,060	6,940	
会費請求等連絡通信費	5,000	17,606	△ 12,606	会費請求に関する資料等の送付
その他	5,000	12,808	△ 7,808	学会過去資料送付等
6 負担金	20,210	20,216	△ 6	
IFCS	0	0	0	
統計関連学会連合	20,210	20,216	△ 6	2014年分および振込手数料
7 積立	45,000	45,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	15,000	15,000	0	
IFCS負担金のための積立	25,000	25,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	937,130	1,117,385	△ 180,255	
E 当期収支差額(A-D)	1,870	△ 105,066	106,936	
F 次期繰越収支差額(C-D)	1,125,798	1,085,222	40,576	
G 支出合計(D+E)	2,062,928	2,202,607	△ 139,679	

日本分類学会会則第10条に基づき、平成26年4月1日より平成27年3月31日までの会計経理を監査した結果、決算報告書の通り相違ないことを認めます。

平成27年8月7日
会計監事

繁 栴 算 男 印

会計監事

吉 野 諒 三 印

(実際の決算報告書には両監事の直筆の署名と押印あり)

日本分類学会 平成 27 年度事業計画

平成 27 年 3 月 2 日

1. 第 34 回大会, セミナー, 2014 年シンポジウムの開催
第 34 回大会を平成 28 年 3 月に開催する。また, 大会会期中にセミナーを開催する。2015 年シンポジウムを平成 27 年 9 月 (統計関連学会連合大会会期中) に開催する。
2. 第 34 回総会の開催
第 34 回総会を第 34 回大会開催中の平成 28 年 3 月に開催する。
3. 運営委員会, 幹事会の開催
 - (1) 運営委員会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する
下記事項を検討課題とする。
 - ・他学会大会・シンポジウムへの協賛, 統計関連学会連合への対応
 - ・総会の議題
 - ・その他検討の必要な課題
 - (2) 幹事会は必要に応じて電子メールによる開催も含め実施する。
4. 会報, ウェブページ, メールニュースおよび Facebook による学会および関連情報の発信
広報担当幹事を中心に, 学会活動の告知および報告を会報 (No.34 を平成 27 年 6 月発行) およびウェブページにて発信する。加えて, 速報性のある情報についてはメールニュースや Facebook などを活用し, 適宜会員への情報提供を行う。
5. 和文誌「データ分析の理論と応用」の発行, ADAC (欧文ジャーナル) の発行協力
日本分類学会編集委員会を中心に第 5 巻第 1 号 (特集「コレスポネンズ分析・Dual Scaling・数量化理論再考」, 担当編集委員: 今泉忠氏 (多摩大学)) の発行を行う。また ADAC への発行協力および投稿支援を行う。
6. 学会賞の授与
学会賞の授与に向けての準備を進める。
7. フェロー制度設立に向けての準備
フェロー制度設立に向けての準備を進める。
8. 他学会との交流と協力
 - (1) 統計関連学会連合理事会への協力・参加, プログラム委員会, 運営委員会への参加, 2014 年度統計関連学会連合大会の共催
 - (2) 国際分類学会(IFCS)への協力, 分担金の負担
IFCS2017 日本開催に向けての検討
 - (3) IFCS 傘下学会への協力
 - (4) 要請のあった諸学会・研究会・シンポジウムなどへの協賛
9. 学術会議への登録検討
本学会を学術会議へ日本学術会議協力学術研究団体として登録することについて検討を行う。
10. 学会資料の電子化および保管
本学会の資料の電子化に伴い, 紙媒体の資料の整理を行い, しかるべき場所での保管を検討する。

平成27年度予算
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増 減	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	10,000	0	2,000円×5人として算出
2 会費収入	527,000	491,000	36,000	
正会員	485,000	445,000	40,000	5,000円×(145人×0.67≒97人)として算出
シニア会員	6,000	6,000	0	3,000円×(3人×0.67≒2人)として算出
学生会員	6,000	10,000	△ 4,000	2,000円×(4人×0.75≒3人)として算出
賛助会員	30,000	30,000	0	30,000円×1口として算出
前年度以前分	0	0	0	
前受金	0	0	0	
3 論文誌関係収入	150,000	168,000	△ 18,000	
論文集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	バックナンバー販売など
広告収入	150,000	150,000	0	論文誌 Vol. 5 の広告収入、実績より算出
別刷代金	0	0	0	
論文誌関係雑収入	0	18,000	△ 18,000	
4 雑収入	240,000	240,000	0	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	240,000	240,000	0	実績より年2回で算出
寄付・広告等	0	0	0	
利子収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	30,000	△ 5,000	
積立より繰入	25,000	30,000	△ 5,000	IFCS 負担金
A 当期収入合計	952,000	939,000	13,000	
B 前期繰越収支差額	1,085,222	1,123,928	△ 38,706	
C 収入合計(A+B)	2,037,222	2,062,928	△ 25,706	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	500,000	500,000	0	
和文誌(Vol4)	500,000	500,000	0	送料を含む
論文誌関係雑支出	0	0	0	
その他	0	0	0	
2 事業費	140,000	200,000	60,000	
大会・シンポジウム運営補助費	50,000	50,000	0	シンポジウムは連合大会のときに実施
セミナー運営補助費	50,000	80,000	30,000	年2回で、講師謝礼・資料等
広報費	5,000	30,000	25,000	学会パンフレット作成費
学会賞経費	35,000	10,000	△ 25,000	表彰状経費、花代、大会参加費
名簿作成	0	0	0	今年度実施計画なし
選挙経費	0	30,000	30,000	27年度選挙なし
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	47,000	30,000	△ 17,000	
幹事会・運営委員会・総会等運営費	45,000	30,000	△ 15,000	実績より算出
その他	2,000	0	△ 2,000	実績より算出
4 事務費	125,920	105,920	△ 20,000	
業務委託費	50,420	50,420	0	統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	△ 10,000	
事務用品・消耗品費	25,000	10,000	△ 15,000	実績より算出
ADAC事務連絡費	2,000	2,000	0	該当者のみ発送、購読費は会費に上乗せ、実績より算出
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	実績より算出
会報印刷費	30,000	35,000	5,000	会報 No.34、実績より算出
印刷費	5,000	5,000	0	開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	0	0	0	
5 通信・郵送費	36,000	35,000	△ 1,000	
会報等送料	25,000	25,000	0	会報 No.34、学会からのお知らせ、実績より算出
会費請求等連絡通信費	6,000	5,000	△ 1,000	会費請求に関する資料等の送付、実績より算出
その他	5,000	5,000	0	他学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	70,216	20,210	△ 50,006	
IFCS	50,000	0	△ 50,000	2007年×2年分(2015年度・2016年度分)および海外送金等経費
統計関連学会連合	20,216	20,210	△ 6	2015年分、振込手数料を含む
7 積立	30,000	45,000	15,000	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	25,000	15,000	△ 10,000	選挙にかかる実費から算出
IFCS負担金のための積立	0	25,000	0	IFCS負担金支払いのための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	950,136	937,130	△ 13,006	
E 当期収支差額(A-D)	1,864	1,870	6	
F 次期繰越収支差額(C-D)	1,087,086	1,125,798	38,712	
G 支出合計(D+F)	2,037,222	2,062,928	25,706	

2. 学術会議への登録について

今泉会長から学術会議への登録について、その登録条件や登録の重要性の説明があった。特に登録に際して他の分類学会の組織との調整や本学会における登録条件の現状などの意見交換が行われ、学会名の名称も含め、今後継続して進めていくこととなった。

3. 日本分類学会賞設立について

今泉会長からこれまでの学会賞設立に関する経過報告があり、選考基準や選考規定などの説明があった。特に副賞として大会参加費等の補助や受賞者講演の実施などの意見交換が行われた。またフェローについては現在調整中であり、このことについても意見交換が行われた。審議の結果、学会賞の詳細、フェローについて、今後継続して進めることとなった。

4. 入退会について

竹内幹事長から入退会の審議場所について検討中であることの説明があった。入退会をともに運営委員会での審議事項とすることを主に考え、会則変更も伴うこともあり、現在調整中であることの紹介があった。意見交換・審議の結果、今後継続して進めることとなった。退会希望者については退会理由などを確認してからの継続審議となった。

5. その他

(1) Facebook の活用について

今泉会長から学会における Facebook の活用について必要性や運用方針などの紹介があり、意見交換が行われた。他学会の状況や実際の運用の仕方など今後担当者間で検討していくこととなった。

(2) 国際学会について

今泉会長から日独分類学会などの国際学会の日本開催について検討中であることの紹介があった。また IFCS の日本招致についても検討していることの紹介があった。加えて岡太運営委員から海外での分類学会の状況を踏まえ、海外からの参加も考慮し、英語セッションなどの検討提案があった。

■開会の挨拶

最後に今泉会長の閉会の挨拶により、閉会となった。

・平成 25-26 年度第 3 回運営委員会

開催日時：平成 26 年 3 月 2 日（日）11:30～13:00

開催場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス

（〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 12 階）

出席者：今泉忠（会長，多摩大学），竹内光悦（幹事長，

実践女子大学），大津起夫（大学入試センター），岡太彬訓（多摩大学），栗原考次（岡山大学），中山厚穂（首都大学東京），林篤裕（九州大学），林文（統計数理研究所），宿久洋（同志社大学），山本義郎（東海大学）（会長，幹事長以外五十音順，敬称略）
陪席幹事：河野康成（立教大学リーダーシップ研究所）（敬称略）

■開会の挨拶

今泉会長から開会の挨拶があり、今泉会長を議長として、下記議題について審議した。

議題

審議事項

1. 日本分類学会学会賞について

竹内幹事長から資料に基づき、日本分類学会学会賞（貢献賞，論文賞，奨励賞）の設立とそれぞれの賞の選考過程について説明があった。意見交換と審議の結果、学会賞の会員からの推薦方法，選考委員長の選出方法など文言を多少修正した上で、総会に諮ることとなった。そして、名誉会員とフェローの設置については今後継続して進めることとなった。

2. IFCS 大会日本開催(2017)について

今泉会長から資料に基づいて IFCS2017 の日本開催への立候補について説明があった。その主な内容は、日本分類学会は主催となり、会計は学会とは独立採算とする、カンファレンスボリュームを出版予定であるというものであった。また、次期 IFCS 会長となる岡太彬訓会員（多摩大学）を学会として積極的にサポートする意味でも IFCS2017 を日本で開催したいとのことであった。審議の結果、大会実行委員会委員長を現会長の今泉会長として IFCS2017 の日本開催への立候補を総会に諮ることとなった。なお、IFCS2015 でフライヤーを配布する必要があることから会場を優先して決める必要があり、東京より西を候補として 2017 年 8 月の開催予定として今後継続して検討していくこととなった。

3. 大会の次回開催場所について

竹内幹事長から横山暁氏（帝京大学）を大会実行委員長として 2015 年 3 月上旬に第 33 回大会を開催することが提案された。意見交換・審議の結果、提案の通り承認された。今後の大会運営は、会期を 2 日間（初日セミナー（終了後懇親会），二日目大会）とすること、その会期中の幹事会，運営委員会，総会の日程を固定化すること（編集委員会は初日セミナー前（9:00～10:00），幹事会は初日編集委員会終了後（10:00～

12:00)、運営委員会は二日目昼) こととなった。

4. セミナーについて

竹内幹事長から今後のセミナーの運営方針について提案が行われた。意見交換・審議の結果、セミナーの年複数回開催(回数は2回から3回、開催時期は3月、8月、12月等)、ニーズごとのテーマ設定(大会と同時に開催する場合にはアカデミック向け、単独で開催する場合には企業とタイアップしてビジネスパーソン向けなど)、参加費の設定(会員と非会員の差別化)、告知の充実による集客増などについて継続して検討することとなった。

5. 入会に関する会則等の変更について

竹内幹事長から資料に基づいて入会に関する会則等変更についての説明があった。審議の結果、提案どおり承認された。なお、審議をメールで行う場合の承認のためのプロセスについて継続審議することとなった。

6. 平成25年度事業報告ならびに決算報告について

中山庶務担当幹事から平成25年度事業報告、河野会計担当幹事より平成25年度決算報告について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、総会に諮ることとなった。

7. 平成26年度事業計画ならびに予算計画について

中山庶務担当幹事から平成26年度事業報告、河野会計担当幹事より平成27年度決算報告について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、総会に諮ることとなった。

8. 総会議題について

竹内幹事長から資料に基づいて総会議題についての説明があり、審議の結果、微修正の上承認された。

■閉会の挨拶

今泉会長から閉会の挨拶で閉会となった。

・平成25-26年度第4回・平成27-28年度第1回運営委員会

開催日時：平成27年3月3日(火) 12:10~13:10

開催場所：帝京大学霞ヶ関キャンパス(〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1 平河町森タワー9階)

出席者：今泉忠(会長、多摩大学)、岡太彬訓(多摩大学)、酒折文武(中央大学)、繁榎算男(帝京大学)、竹内光悦(実践女子大学)、中山厚徳(首都大学東京)、馬場康維(統計数理研究所)、林篤裕(九州大学)、林文(統計数理研究所)、水田正弘(北海道大学)、山本

義郎(東海大学)、横山暁(帝京大学)

(会長、以外五十音順、敬称略)

陪席幹事：河野康成(立教大学リーダーシップ研究所)

(敬称略)

■開会の挨拶

今泉会長から開会の挨拶があり、今泉会長を議長として、下記議題について審議した。

議題

報告事項

1. 運営方針について

平成27-28年度役員(会長、会計監事、運営委員)の改選の結果について中山庶務担当幹事から以下のように報告があった。

<新会長>(敬称略)

今泉忠(多摩大学)

<新会計監事>(2名：50音順、敬称略)

竹内光悦(実践女子大学)

林篤裕(九州大学)

<新運営委員>(20名：50音順、敬称略)

大隅昇(元統計数理研究所)

大津起夫(大学入試センター)

狩野裕(大阪大学)

栗原考次(岡山大学)

酒折文武(中央大学)

佐藤美佳(筑波大学)

繁榎算男(帝京大学)

豊田裕貴(法政大学)

中山厚徳(首都大学東京)

馬場康維(統計数理研究所)

林文(統計数理研究所)

水田正弘(北海道大学)

村上隆(中京大学)

宿久洋(同志社大学)

山岡和枝(帝京大学)

山口和範(立教大学)

山本義郎(東海大学)

横山暁(帝京大学)

吉野諒三(統計数理研究所)

渡辺美智子(慶應義塾大学)

審議事項

1. 幹事長の推薦と承認

今泉会長から幹事長として中山厚徳運営委員の推薦があり、承認された。

2. 次回大会の開催場所について

中山庶務担当幹事より、第34回大会を山本義郎氏（東海大学）を大会実行委員会委員長として、東海大学高輪キャンパスにおいて平成28年3月上旬の月曜日と火曜日の2日間の日程で開催予定である旨の説明があり、審議の結果、承認された。

3. 次回セミナーについて

竹内幹事長から、今後のセミナーの運営方針について説明と提案があった。意見交換・審議の結果、セミナーの年度内複数回開催を検討することとした。複数回開催の場合、大会中に併設して開催する場合にはアカデミックパーソン向け、単独開催の場合には企業とタイアップするなどしてビジネスパーソン向けとするといったテーマ設定を行うこと、参加費については会員、非会員の差別化を図ること、アナウンスの充実による参加者増などについて検討することとなった。

4. 平成26年度事業報告ならびに決算報告について

中山庶務担当幹事から平成26年度事業報告、河野会計担当幹事より平成26年度決算報告について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、総会に諮ることとなった。

5. 平成27年度事業計画ならびに予算計画について

中山庶務担当幹事から平成27年度事業計画、河野会計担当幹事より平成27年度予算案について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、総会に諮ることとなった。

6. IFCS2017開催について

今泉会長から資料に基づいてIFCS2017の日本開催への立候補について説明があった。その主な内容は、会場は東海大学高輪キャンパスで、2017年8月7(月)にチュートリアル、8(火)～10日(木)に大会を開催する予定であること、大会実行委員会とローカルSPCの構成、日本分類学会の事業であるが、計画や会計などは独立で行う予定であること、2015年3月10日までにIFCS Councilに日本開催への立候補のための書類を提出し、IFCS2015でFlyerを配布予定であるというものであった。審議の結果、提案の通り承認され、事業計画として総会で説明することとなった。

7. 総会議題について

竹内幹事長から資料に基づいて総会議題についての説明があり、審議の結果、微修正の上承認された。

8. 入退会について

入退会について、中山庶務担当幹事より説明があ

り、審議の結果、承認された。

9. その他

今泉会長から、学会賞内規の「学会賞選考委員」「学会賞の表彰の場の変更について」の2点の変更についての説明があった。審議の結果、提案の通り承認された。

■閉会の挨拶

今泉会長から閉会の挨拶があり、閉会となった。

○ ネット運営委員会記録

・平成26年度第1回ネット運営委員会

開催日時：平成26年5月1日～6月2日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

審議事項

議題1. 退会承認について

議題2. 入会承認について

・平成26年度第2回ネット運営委員会

開催日時：平成26年11月12日～11月25日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

審議事項

1. 選挙管理委員会委員就任の承認について

・平成26年度第3回ネット運営委員会

開催日時：平成27年2月4日～2月9日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

審議事項

議題1. 学会賞内規の変更について

議題2. 平成24年度学会賞推薦書の有効について

・平成26年度第4回ネット運営委員会

開催日時：平成27年2月12日～2月19日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

審議事項

議題1. 学会賞候補者の承認について

報告事項

議題2. 編集委員会からの報告

2. 編集委員会委員の増員：宮本定明氏（筑波大学）

2. 投稿規定4の改定：「論文投稿者のうち少なくとも1名は国際分類学会連合加盟のいずれかの分類学会の会員でなければならない。」の後に、以下の文章を加える。「ただし、特集への投稿の場合、前記の論文投稿者

についての条件を適用しない。」

・平成 26 年度第 5 回ネット運営委員会

開催日時：平成 27 年 3 月 16 日～4 月 15 日

(メーリングリストによる審議)

下記の議題について審議し、承認された。

議題 1：平成 25-26 年度第 3 回運営委員会議事録案

議題 2：平成 25-26 年度第 4 回運営委員会議事録案

議題 3：日本分類学会平成 26 年度総会の議事録案

○ 幹事会議事録

・平成 25-26 年度第 1 回幹事会

開催日時：平成 25 年 12 月 14 日 (土)、10:00～11:00

開催場所：品川インターシティフロントビル 3F Desk@

出席者：今泉忠 (会長, 多摩大学), 竹内光悦 (幹事長, 実践女子大学), 河野康成 (立教大学リーダーシップ研究所), 豊田裕貴 (多摩大学), 横山暁 (帝京大学) (会長, 幹事長以外五十音順, 敬称略)

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

審議事項

1. 平成 25 年度大会について

竹内幹事長から資料に基づき平成 25 年度の大会について、首都大学東京の中山厚穂氏を実行委員長とし、3 月 1 日～2 日に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて実施すること、初日に日本分類学会セミナーを実施することの説明があった。審議の結果、承認され、運営委員会に諮ることとなった。

2. 日本分類学会セミナーについて

豊田セミナー担当幹事からセミナー開催主旨や内容、予定講師などの紹介があった。特に独立採算や会場の規模、当日の入会者の対応などについて、意見交換が行われ、再度検討することとなった。方針等については、審議の結果、承認され、運営委員会に諮ることとなった。

3. 学術会議への登録について

竹内幹事長から本学会の学術会議への登録について、登録条件などの紹介など経過報告が行われた。本件については継続審議とした。

4. 日本分類学会賞設立について

竹内幹事長からこれまでの設立に関して経過報告が

あり、選考基準や選考規定など今後の検討課題の説明があった。特に副賞として大会参加費等の補助や受賞者講演の実施などの意見交換が行われた。規定を幹事会で作成するなど、会長と相談しながら進めることとした。

5. 入退会について

竹内幹事長から入退会の審議場所について検討中であることの説明があった。入退会をともに運営委員会での審議事項とすることを主に考え、現在調整中であることの紹介があった。意見交換の結果、今後継続して進めることとなった。

■開会の挨拶

竹内幹事長の閉会の挨拶により、閉会となった。

・平成 25-26 年度第 2 回幹事会

開催日時：平成 26 年 3 月 1 日(土)10:00～11:00

開催場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス (〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 12 階)

出席者：今泉忠 (多摩大学), 竹内光悦 (実践女子大学), 河野康成 (立教大学リーダーシップ研究所), 豊田裕貴 (多摩大学), 中山厚穂 (首都大学東京), 林篤裕 (九州大学), 宿久洋 (同志社大学), 横山暁 (帝京大学) (会長, 幹事長以外五十音順, 敬称略)

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

審議事項

1. 日本分類学会学会賞について

竹内幹事長から資料に基づき、日本分類学会学会賞 (貢献賞, 論文賞, 奨励賞) の設立とそれぞれの賞の選考過程について説明があった。意見交換と審議の結果、学会賞の会員からの推薦方法、選考委員長の選出方法など文言を多少修正した上で、運営委員会に諮ることとなった。そして、名誉会員とフェローの設置については今後継続して進めることとなった。

2. IFCS 大会日本開催(2017)について

今泉会長から資料に基づいて IFCS2017 の日本開催への立候補について説明があった。その主な内容は、日本分類学会は主催となり、会計は学会とは独立採算とする、カンファレンスボリュームを出版予定であるというものであった。また、次期 IFCS 会長となる岡太彬訓会員 (多摩大学) を学会として積極的にサポー

トする意味でも IFCS2017 を日本で開催したいとのことであった。審議の結果、大会実行委員長を現会長の今泉会長としてIFCS2017の日本開催への立候補について運営委員会に諮ることとなった。なお、IFCS2015 でフライヤーを配布する必要があることから会場を優先して決める必要があり、東京より西を候補として 2017 年 8 月を開催予定として今後継続審議していくこととなった

3. 平成 26 年度大会について

竹内幹事長から帝京大学の横山暁氏を大会実行委員長として 2015 年 3 月上旬に開催することが提案された。意見交換・審議の結果、提案の通り承認された。また、今後の大会運営は会期を 2 日間（初日セミナー（終了後懇親会）、二日目大会）とすること、その会期中の幹事会、運営委員会、総会の日程を固定化すること（編集委員会は初日セミナー前（9:00～10:00）、幹事会は初日編集委員会終了後（10:00～12:00）、運営委員会は二日目昼）こととなった。

4. セミナーについて

竹内幹事長からセミナーの開催方針についての提案がされた。意見交換と審議の結果、今後、複数回開催（2 回から 3 回、3 月、8 月、12 月等）することを検討することとなった。なお、年複数回開催する場合には、大会と同時に開催する場合にはアカデミック向け、単独で開催する場合には企業とタイアップするなどビジネスパーソン向けとするといったニーズごとのテーマ設定をすることや、会員と非会員の差別化のための参加費の設定、告知の充実による集客増についての施策などについて継続審議していくこととした。

5. 入会に関する会則等の変更について

竹内幹事長から資料に基づいて入会に関する会則等変更についての説明があった。審議の結果、提案どおり承認された。なお、審議をメールで行う場合の承認のためのプロセスについては継続審議することとした。

6. 学術会議への登録について

竹内幹事長から本学会の学術会議への登録について、登録条件の紹介など、これまでの登録に向けた準備状況についての経過報告が行われた。審議の結果、本件については継続審議することとした。

7. 平成 25 年度事業報告ならびに決算報告について

中山庶務担当幹事から平成 25 年度事業報告、河野会計担当幹事より平成 25 年度決算報告について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、運営委

員会に諮ることとなった。

8. 平成 26 年度事業計画ならびに予算計画について

中山庶務担当幹事から平成 26 年度事業計画、河野会計担当幹事より平成 26 年度予算案について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、運営委員会に諮ることとなった。

9. 総会議題について

竹内幹事長から資料に基づいて総会議題についての説明があり、審議の結果、微修正の上承認され、運営委員会に諮ることとなった。

■開会の挨拶

竹内幹事長の閉会の挨拶により、閉会となった。

・平成 25-26 年度第 3 回幹事会

日時：平成 26 年 6 月 7 日（土）13:30-15:00

会場：実践女子大学渋谷キャンパス、12F, 1219 教室
〒150-8538 東京都渋谷区東 1-1-49

出席者：今泉忠（会長、多摩大学）、竹内光悦（幹事長、実践女子大学）、栗原孝次（岡山大学）、河野康成（立教大学リーダーシップ研究所）、酒折文武（中央大学）、豊田裕貴（多摩大学）、中山厚穂（首都大学東京）、横山暁（帝京大学）

（会長、幹事長以外五十音順、敬称略）

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

■報告事項

1. 学会資料について

竹内幹事長より、学会事務局に保管されていた学会の紙媒体の資料を整理し、保管用に電子化を行い、また紙媒体の資料は統計数理研究所の倉庫で保管されることになったとの説明があった。

2. 統計関連学会連合大会のシンポジウムについて

竹内幹事長から、2014 年度統計関連学会連合大会会期中に本学会のシンポジウム「主成分分析の拡張と新展開」が足立浩平氏（大阪大学）により企画されている旨の説明があった。

■審議事項

1. 第 33 回大会の開催時期について

竹内幹事長から、2015 年 3 月上旬（第一候補 2015

年3月2日～3日予定、キャンパス未定)に第33回大会の開催を予定していたが、以下の他学会の開催時期が3月に予定されているため開催時期を変更するか検討する必要がある旨の報告があった。

- ・日本統計学会春季集会 3月8日 明治大学中野キャンパス
- ・日本計量生物学会 3月12日, 13日 京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール
- ・応用統計学会 3月13日, 14日 京都大学医学部芝蘭会館稲盛ホール
- ・統計教育の方法論ワークショップ 3月6日, 7日 統計数理研究所

審議の結果、大会の開催日を変更する場合、2月か来年度9月が候補日となるが、2月は各大学が入試業務で忙しく、来年度9月は統計関連学会連合大会会期中に本学会のシンポジウムが開催されること、学会賞の選考過程などを考慮した上、日程は変更せず現状のままとすることとした。なお、会場については実行委員長長の横山暁氏(帝京大学)に帝京大学霞ヶ関キャンパスでの開催が可能かどうか確認していただくこととなった。また、来年度の大会開催時期は他学会の動向などを踏まえながら決定することとなった。

2. セミナー、講演会、ワークショップ等の開催について

豊田セミナー担当幹事から次回大会時に開催するセミナーのテーマについての紹介があった。意見交換と審議の結果、提案の通り承認された。今後、セミナーの年複数回開催の検討とその際の参加者のニーズに合わせたテーマ設定や参加費の設定や告知の充実による集客増のための施策などについては継続して審議していくこととなった。なお、参加費の設定については会員と非会員の差別化の視点も踏まえて検討していくこととした。

3. 学会広報活動について

(1) SNSの立ち上げ、運用について

竹内幹事長から、Facebookに学会活動の広報のためのページを立ち上げたいという提案があった。その目的は学会活動の広報のためであり、投稿は基本的には会報・SNS担当幹事が行うが、必要に応じて他の幹事などもサポートしながら運営していく予定であり、投稿についても会員に限定せず自由に投稿できるようにし設定する予定である旨の説明があった。意見交換と審議の結果、試験運用として開設することが承認された。なお、投稿内容などについては継続審議することとした。

(2) 会員向けメールリングリストの立ち上げ、運用について

竹内幹事長から、メールニュースの配信のために会員向けのメールリングリストの立ち上げと運用についての提案が行われた。意見交換と審議の結果、会員向けメールリングリストを開設し、メールニュースの配信のために運用することが承認された。なお、メールニュースは会員を対象とし、現在の会員名簿の情報をもとにメールアドレスを一斉登録するが、会員が配信停止したい場合はオプトアウト(配信拒否)できるようにすることとした。

(3) 会報の発行について

竹内幹事長から、原稿の依頼などを順次行い、夏を目途(6月末に原稿の回収, 7月中旬に発送)に発送できるよう準備を進めることが提案された。審議の結果、提案の通りに承認された。なお、IFCS2017の日本開催への立候補と関連してIFCSの紹介を今泉会長に寄稿していただくこととなった。

4. IFCS2017に向けての学会としての対応について

今泉会長からIFCS2017の日本開催への立候補に向けての説明があった。意見交換と審議の結果、SPCの委員長は今泉会長とし、開催時期の候補を8月か11月、会場は西日本を想定した上で、12月までに概要を決定しIFCS2015でのFlyerの配布が行えるよう準備を進めて行くこととした。また、学会とは独立採算とした上での大会運営、LOCの構成などについては継続審議となった。

5. 賛助会員向けサービスについて

酒折広報担当幹事から、賛助会員向けのサービス展開の検討についての提案があり、意見交換と審議の結果、継続して審議していくこととなった。

6. 学会賞、フェロー制度について

竹内幹事長から学会賞のスケジュールについての説明があり、審議の結果、提案の通り承認された。またフェロー制度の制定についても説明が行われ、フェロー制度については継続審議していくこととなった。

7. 会則、細則、内規の整備・修正について

竹内幹事長から、会則、細則、内規の整備・修正、学会の英語サイト修正の必要性について問題提起があった。意見交換と審議の結果、これらの整備や修正については継続審議していくこととなった。

8. 会員増に向けての方策について

竹内幹事長から、会員増に向けての方策検討についても問題提起があった。意見交換と審議の結果、セミナーの充実、会員向けメーリングリストや Facebook を活用した広報の展開など会員増に向けた方策について継続して審議していくこととなった。

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により運営委員会が閉会された。

・平成 25-26 年度第 4 回幹事会

日時：平成 26 年 9 月 14 日（日）12:00～13:00

会場：東京大学経済学研究科学術交流棟（小島ホール）
第 1 セミナー室

出席者：今泉忠（会長，多摩大学），竹内光悦（幹事長，実践女子大学），足立浩平（大阪大学），栗原考次（岡山大学），河野康成（立教大学リーダーシップ研究所），豊田裕貴（多摩大学），中山厚穂（首都大学東京），宿久洋（同志社大学），山口和範（立教大学）
（会長，幹事長以外五十音順，敬称略）

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

報告事項

1. IFC2017 の日本開催に向けての準備について

IFC2017 の日本開催に向けての準備について，今泉会長から，組織体制や開催時期について検討している旨の説明と報告があった。

審議事項

1. 日独分類シンポジウムの開催について

今泉会長より，日独分類シンポジウムのこれまで通り日本とドイツでの両方での開催に向けてドイツ側と調整中であり，日本での開催の際には 2015 年 3 月下旬に東京より西の地域で開催，2016 年にドイツでの開催にあたっては ECDA（European Conference on Data Analysis）と同時に開催する案が挙げられている旨の報告があった。日独分類シンポジウムの会計は学会とは別建てとし独立採算とすること，カンファレンスボリュームの出版を検討している旨の説明があった。意見交換と審議の結果，幹事会としては大会実行委員会の立ち上げや会場の決定など開催に向けての準備を早急に進めることとした。

■開会の挨拶

竹内幹事長の閉会の挨拶により，閉会となった。

・平成 25-26 年度第 5 回幹事会

開催日時：平成 27 年 3 月 2 日（月）09:15～10:15

開催場所：帝京大学霞ヶ関キャンパス（〒102-0093

東京都千代田区平河町 2-16-1 平河町森タワー 9 階）

出席者：今泉忠（会長，多摩大学），竹内光悦（幹事長，実践女子大学），河野康成（立教大学リーダーシップ研究所），酒折文武（中央大学），中山厚穂（首都大学東京），豊田裕貴（多摩大学），横山暁（帝京大学）
（会長，幹事長以外五十音順，敬称略）

オブザーバー：岡太彬訓（多摩大学）（敬称略）

■開会の挨拶

竹内幹事長の挨拶により幹事会が開会された。

議題

審議事項

1. 運営方針について

平成 27-28 年度役員（会長，会計監事，運営委員）の改選の結果について中山庶務担当幹事から以下のように報告があった。

<新会長>（敬称略）

今泉忠（多摩大学）

<新会計監事>（2 名：50 音順，敬称略）

竹内光悦（実践女子大学）

林篤裕（九州大学）

<新運営委員>（20 名：50 音順，敬称略）

大隅昇（元統計数理研究所）

大津起夫（大学入試センター）

狩野裕（大阪大学）

栗原考次（岡山大学）

酒折文武（中央大学）

佐藤美佳（筑波大学）

繁樹算男（帝京大学）

豊田裕貴（法政大学）

中山厚穂（首都大学東京）

馬場康維（統計数理研究所）

林文（統計数理研究所）

水田正弘（北海道大学）

村上隆（中京大学）

宿久洋（同志社大学）

山岡和枝（帝京大学）

山口和範（立教大学）

山本義郎（東海大学）

横山暁（帝京大学）

吉野諒三（統計数理研究所）

渡辺美智子（慶應義塾大学）

今泉会長から運営委員会に幹事長候補として中山厚穂氏（首都大学東京）を推薦する予定である旨の報告があった。他の幹事会のメンバーについては、幹事長が決定後、会長と幹事長とで相談の上、決定する旨の説明があった。その際には、学術団体への登録など負担増が考えられることから、各幹事への役割分担の均等化を勘案しながら人数の増員なども検討したうえで決定することとなった。なお、幹事会構成メンバーについては幹事だけでなく、IFCS 関係、統計関連学会連合の本学会選出者も含め、また編集委員会委員長にもオブザーバーとして参加していただくこととした。

2. 大会の次回開催場所について

竹内幹事長から大会の次回開催場所についての説明があり、意見交換と審議の結果、大会実行委員会委員長の候補を、第一候補鶴見裕之氏（横浜国立大学）、第二候補山本義郎氏（東海大学）、第三候補清水信夫氏（統計数理研究所）として開催可能かどうかを打診の上、開催について検討していくこととなった。

3. 次回セミナーについて

竹内幹事長からセミナーを今後年複数回開催することを検討している旨の説明があった。意見交換と審議の結果、セミナーの年度内複数回開催を検討することとした。複数回開催の場合、大会中に併設して開催する場合にはアカデミックパーソン向け、単独開催の場合には企業とタイアップするなどしてビジネスパーソン向けとするといったテーマ設定を行うこと、参加費については会員、非会員の差別化を図ること、アナウンスの充実による参加者増などについて検討することとなった。

4 平成 26 年度事業報告ならびに決算報告について

中山庶務担当幹事から平成 26 年度事業報告、河野会計担当幹事より平成 26 年度決算報告について説明があった。審議の結果、微修正の上承認された。

5. 平成 27 年度事業計画ならびに予算計画について

中山庶務担当幹事から平成 27 年度事業計画、河野会計担当幹事より平成 27 年度予算案について説明があった。審議の結果、微修正の上承認され、運営委員会に諮ることとなった。

6. IFCS2017 開催について

今泉会長から資料に基づいて IFCS2017 の日本開催への立候補について説明があった。その主な内容は、会場は東海大学高輪キャンパスで、2017 年 8 月 7（月）にチュートリアル、8（火）～10 日（木）に大会を開催する予定であること、大会実行委員会とローカル SPC の構成、日本分類学会の事業であるが、計画や会計などは独立で行う予定であること、2015 年 3 月 10 日までに IFCS Council に日本開催への立候補のための書類を提出し、IFCS2015 で Flyer を配布予定であるというものであった。審議の結果、提案の通り承認され、運営委員会に諮ることとなった。

7. 総会議題について

竹内幹事長から資料に基づいて総会議題についての説明があり、審議の結果、微修正の上承認され、運営委員会に諮ることとなった。

■開会の挨拶

竹内幹事長の閉会の挨拶により、閉会となった。

○ ネット幹事会記録

・平成 25 年度第 2 回ネット幹事会

開催日時：平成 25 年 10 月 2 日～10 月 15 日

（メーリングリストによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

・平成 25 年度第 3 回ネット幹事会

開催日時：平成 25 年 12 月 2 日～12 月 13 日

（メーリングリストによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

・平成 25 年度第 4 回ネット幹事会

開催日時：平成 26 年 2 月 1 日～2 月 12 日

（メーリングリストによる審議）

下記の議題について審議し、承認された。

1. 入会承認について

事務局から

● 会員情報の変更等について

会員情報の変更のある方は事務局 (office@bunrui.jp) までご連絡ください。

● 学会誌への論文投稿について

学会研究報告会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。特に本会報でご案内したように特集が企画されています。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

2011年9月に第1号を、2012年9月に第2号、2013年9月に第3号を、2015年3月に第4号を発刊いたしました。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: [bda-submit\(at\) bunrui.jp](mailto:bda-submit(at) bunrui.jp)

問い合わせ先 E-mail: [bda-contact\(at\) bunrui.jp](mailto:bda-contact(at) bunrui.jp)

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会(German Classification Society) およびイタリア分類学会(Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007年より Springer 社から刊行しております(年間3冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

● 会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンルイガッカイジムキョク

● ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■ 編集後記

編集担当幹事 横山暁(帝京大学)

今号に寄稿いただいた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございます。本紙面を借りて、お礼申し上げます。会報のみならずメールニュースや Facebook 等、さまざまな形で情報発信をしていく予定です。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、ご連絡ください。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>